

始業式

新学期がはじまった。新しい教室。新しい先生。新しい仲間。これらに期待をふくらまし、わくわくする気持ちもあると同時に、不安な気持ちもある。

私たちは進化の過程で新しいものに対する恐怖も身につけた。それをネオフォビアという。ネオはギリシャ語で新しい (new)、フォビアは恐怖を意味し、日本語で「新奇恐怖」ともいう。

動物が進化の過程でネオフォビアを身に着けた理由はよく理解できる。見たことのないものをむやみに口に入れないようにしたり、どんな外敵がいるかわからない場所に警戒もせずに入ってしまうないようにしたりすることは生存戦略にかなっている。

しかし、新奇恐怖は新しい状況や見たことのないものに恐怖、すなわちストレスを感じることなので、新奇恐怖が強いのもよくない。ラットを迷路に入れ、じっと動こうとしないものを新奇恐怖の強いグループ、どんどん探検するものを新奇恐怖の弱いグループとして分類すると、新奇恐怖の強いグループの方が短命であることがわかっている。

みなさんはミネルバ大学という大学があるのを知っているか。この大学は世界中の 80 カ国から受験生が集まり、合格率はわずか 1.2 パーセントだという。これからどんな大学か紹介するが、それを聞けばなぜ、そんなに人気があるのかわかってもらえると思う。

ミネルバ大学の本部はサンフランシスコにあるので、アメリカの大学とされている。4 年制の総合大学で寮をもっているが、キャンパスがなく授業はすべて 19 人以下の少人数講座で討論形式が中心のオンラインで行われる。週 4 コマのオンライン講座に出席するためには、たくさんの資料や課題をこなさなければならない。

講義の内容は世界トップの大学と遜色ない、少数精鋭の討論型授業となっている。

ミネルバ大学のすごいところは、講義をオンラインで実施しキャンパスを持たないことを最大限生かし、学生が世界中の都市を移動することだ。4 学年で 1000 人ほどの学部生は 1 年目はサンフランシスコ、2 年生になると前半は韓国のソウル、後半はインドの中南部にあるハイデラバードに学年ごと移動する。さらに 3 年生の前半はベルリン、後半はアルゼンチンのブエノスアイレス、4 年生前期はロンドン、後期は台湾の台北へ移動する。

世界の都市がこの大学のキャンパスだ。学生は各都市で、地元の企業や行政機関、NPO と

協力してフィールドワークを重ね、みなさんが取組んでいるような課題研究やプロジェクト学習に取り組む。キャンパスを持たないため、施設の維持費や人件費を抑えることができ、年間の学費は平均的なアメリカ私立大学の半分以下だ。

ミネルバ大学がほしい学生は、「才能があり」「努力ができる」学生であって、それ以外に国籍や、所得は関係ない。入試は全ての審査がオンライン。受験料も無料。また、語学テストや、推薦状などは必要ない。必要なのは、「学校成績」「課外活動実績」「録画で提出する思考・表現力テスト」のみ。審査期間も8月からの約7ヶ月半かかる。

アメリカの本部にいる教授陣からオンラインの討論型の授業を受けながら、各地の異なる社会文化的、政治的環境の中で、実践的なプロジェクトに関わりながら学びを深める。このような環境で学んだ学生は自然とグローバルな視野を持った、リーダーとしての資質を養い、卒業後起業するものも多いという。世界中の学生が集まるが日本人は学生の5%に過ぎない。

ネオフォビアの話をしたが、私たちは新奇なるものを受け入れ、追い求めなければ成長しない。新奇さは学びの可能性を湛えている。

新しいもの、見知らぬ世界を自ら求めよう。